

江戸管鑰

上

三	一	三	和
冊	冊	冊	書
架	架	架	門
函	函	函	類
號	號	號	
三	一	三	
四	九	四	
九	八	九	
八	號	八	
號		號	

第三百廿六號

49

庫	文	閣	內
天	三	三	和
西	四	四	書
兩	九	九	
七	八	八	
三	號	號	
架			

書	和
三	和
四	書
四	門
九	類
八	
號	

共三

內閣文庫	
番號	和 34498
冊數	3 (1)
函號	174 49



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



一 江都官論秘澁物目錄

上之卷



所入服之者其法事

芝車所出之事

并牛之教本持價之事

法家之十二間堂聖觸之事

海深川之十二官堂持藥

并弓師備後境屋久大真之事



日 弓師備後守掃之事

日 大少之法儀在金子町之事

一 本石町時之儀中事也之事

并 為丸法儀在金子町之事

一 守戸云芝居七苑他者之事

一 并 下換及取清油方面之事

日 明石部之事

日 林葉之事 決城之法儀之勤儀之事

日 村山又之部市村之事

御城之事

日 森田初任之事

日 八木之事

一 御府内之事

日 慶長年中之事

日 青櫛之事

日 店司之事

日 吉子之札方公之事

日 所送書行檢使与力石流書返

中中之事

一 兩國橋新大橋町傳奉所改配之事

一 与五橋若流出書急有志同伊等信流

身上没收出取之事

一 日橋之派九年出書信流之事

一 并 元派志系字保二年信流復事

一 新大橋初出書信流之事

一 并 出書信流之事

出書信流之事

一 出書信流之事

一 出書信流之事

一 出書信流之事

出書信流之事

一 出書信流之事

一 右新宮殿之山所了事

江戶穿尾之託係并 迄事

并 町清江新神り之長文

日 揚子屋浦新親より作遊之長文

日 穿尾浦改陣板之事

日 酉年大火之長石書并日大書之

因人と遊放の長文

日 常力支取の同心書後合山事

日 居宅書後取之事

日 常力取揚子屋毎人合より作遊

日 常力病室より宿台板外書病

取の事

日 居宅作屋敷取遊取の事

江戶書事

一 穿尾殿との事

一 穿尾殿板方因人増知送り地事

一 穿因人教月一沙用番入書記之事

所穿此石より力正歴年より下り

一 穿此石より力勤り所波山は信記より

所出波より力正歴年より下り

一 海國人情味米加波方の信拂也又

一 海國人情味米加波方の信拂也又

書上之事

一 車台七由事之事

一 米米石所波用向水動寺に流米之事

一 海國人情味米加波方の信拂也又

一 海國人情味米加波方の信拂也又

一 昔七祖先より矣説之書

一 米車野丹波より父子始録之事

一 中下所卷

一 此人預松古島の上書字

一 海國人情味米加波方の信拂也又

一 漢字の漢字を由緒とす

一 并 柳相公御判物の事

一 柳相公 山正南なる事

一 關東 御入由なる漢字の事

一 并 上列下仁田村島なる事

一 御方なる事

一 漢字の古語等

一 日人との事

一 山正南なる事

一 漢字の義

一 漢字の由緒

一 柳相公御判物の事

一 山正南なる事

一 大徳免なる事

一 甲列の事

一 漢字の事

一 皮御用申付書馬池文之事

一 同後修理外上之及付子書の事

一 青山寺法隆寺二字名齋物之事

一 同人方書平定外上之及付子書の事

一 高良公御用申付書齋物之事

一 彈正右衛門尉内上之及付子書の事

一 日蓮上人公御用申付書齋物之事

一 河上洛之節格合勅方之事

一 膳所 上須湯持扇齋物之事

一 河段御用申付書齋物之事

一 齋物之及付子書の事

一 極樂寺齋物之及付子書の事

一 小石川養生所一件之事

一 河上小川寺船上書齋物之事

一 日蓮宗院勅方御用申付書の事

一 同 高良公御用申付書齋物之事

人延者定之 以作年事

一 神祖河室培涉造之 月德部化骨形

一 杉田屋凡馬 由緒之事

并 味字ヶ尔 必合就之 柳水津 涉吉

康忠 歌音十 武級 討取 大久保

是 亦 部之 物 是 又

日 水 中 津 吉 三 宮 命 之 改 名 以 作 年 事

日 塔 城 上 名 字 以 作 年 事

日 指 按 之 紋 所 之 事

日 吉 皇 塚 築 之 之 事

一 吉 良 屋 市 大 島 由 緒 之 事

一 在 多 村 吉 良 島 門 由 緒 之 事

并 水 津 并 河 敷 涉 築 吉 出 指 南 上 信

日 石 三 川 先 陳 之 事

一 地 割 役 記 系 之 事

并 本 尔 亦 大 島 門 津 比 之 事

日本東部古事ノ常ニ傳智ノ事
日輪屋ニ定其地割及ノ傳智ノ事
日水野海言ノ東代ノ中緒ノ事
一 亥子保年中所人物ノ事

江戸官簿秘鑑惣目録終

町人編指と事ノ事

夫天地定カ始メ天旋運轉ト以滄海と探見
之端カ漸クそカ山嶽隆クカ方是百中地始カ之
許然今ニ來ルカ事カ小カレカ或カカノ法カ
或カカノ事カ或カカノ事カ或カカノ事カ
必カ一ノ法カ始メ物探カ中ニ始メカ志其我カ
由カ法合カ最貴カ事カ程カカノ事カ
先カ始メカ事カ富カ於カ事カ保カ事カ子カ月所カ事カ

者此類指以多心一平心一乃其方也一之階級
以學之者有之其心之類と密尔之れは不
町人尤指指之志の如く何れも恰好の者有
指の心一正の者有之の心或は流俗の心
之の指の心流俗の指の心一也今此中書者
之は此の類の心此の類の心一乃其指の心
在屏之也其書者皆此の類一乃其指の心
其子保其年子六月廿日 戸 山崎

右書者皆此の類一平心一乃其方也一之階級
大園誠希書中山出雲守一也其乃其心即町人
年也其指の心在平心一乃其方也一之階級
件之書者皆此の類一平心一乃其方也一之階級
酒名所在在也其指の心在平心一乃其方也一之階級
其心乃其心也其指の心在平心一乃其方也一之階級
書之取用一其指の心在平心一乃其方也一之階級
其心乃其心也其指の心在平心一乃其方也一之階級

之

町人指指之意は、何れ極く恰好なるものを
指すべし。氣味は定めて、指は長束何れに列せ
て、指は指すべし。然れども、指す者、指すべし
と、指すべし。夜中何れ外へ、指す指す
指す指す。指す指す。七年六月、宗正保少年、西七月
と、八寸五長く、指す指す。指す指す。指す指す。
中傳人、指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。

町人、指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。

先年、町人、指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。
礼葬、礼葬。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。
年、宗正保、宗正保。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。
指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。
世、宗正保、宗正保。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。
天和二年、宗正保、宗正保。指す指す。指す指す。指す指す。指す指す。

一 右同年日月法持持人の所人刀部しは天
 清光正作也但法神者是吾用之波并
 百連の若者是文吾用之在方は作也
 一 町年事あり物所人刀部法持持人と指東
 ち若者是也刀指也此は安し平八年山前天
 和二年亥二月法持持人の所人町年事は
 刀指は法持持人お必今はを適言は法持持人
 町年保あ年 中心の雲

六月廿日 大島新流

芝車町日午町之事

牛の牧牛の編り之事

一 町中保あ年正七月に法持持人あり馬部
 町中保あ年中山あり法持持人と指持人あり芝車町
 牛町の事也保あ年あり山あり別微細小之
 書と調へて法持持人あり

是人

一 芝事同之歲八十年以前實承十二年子之年
 市谷牛史古橋石原清是後出急身京部介
 事牛宰下之之部牛事元並山陽備湯
 菅原清之新柳生但馬守水原清之市谷八
 幡前之四河余之新之你清山清甲水信也其
 少之官之年中之起清之由比下海也其也
 山和 上名之由清是則之山和也其也
 山和之山和也其也其也其也其也其也其也
 八十年以前年安夜在赤色杉年也其也
 神保備前守新倉石見守其根源在赤色
 山和之山和也其也其也其也其也其也其也
 相備之山和也其也其也其也其也其也其也
 奉以之山和也其也其也其也其也其也其也
 支那之山和也其也其也其也其也其也其也
 牛和之山和也其也其也其也其也其也其也
 其也其也其也其也其也其也其也其也其也

お水山並に海にまきあつた方七十八町は江の年
馬場と海に江列角平村尾川村並上列
橋の京の者花中平年の丈に定人の命あつて
山に江の強中平山老江の男平江の江の年
子平山江の山老あつた年江の年江の年
古平江の江の年江の年江の年江の年江の年
山江の年

播磨丹波の山平江の年江の年江の年江の年
山江の年
右の通の山江の年

享保二年
七月

漢字源列の年之間書始りて
并弓師伯後境屋久高の年江の年
諸の諸作方の年江の年
漢字源列の年江の年江の年江の年江の年

早の立地地居及海松平伴如極中上
寺の殿様口上伴上堂居浦地洋領位者中上
杉浦九郎と云ふ斗子あり女に貸約之實取
十九年乙午年造之雲月九日水渡山中惣
浦と此村に流れ集りて築代斗りたり事小
山に花丸右の斗子あり女に貸約之實取
杉浦九郎の所に申年浦領領上云
浦の殿様不意及合字杉浦九郎に似る事
杉浦九郎と杉浦九郎と申十月二十日
源定新(杉浦伴如)杉浦由雲杉浦由雲右
京進板胡念存人杉浦神尾信重杉浦九郎
上寺堂居浦地水渡代境屋名取山中惣有
杉浦支能の位者及及杉浦浦領位者中上
杉浦堂居上寺山中甲十月十日洋領位者中上
杉浦堂居上寺杉浦位者中上

先

一 白銀の枚

書銀

一 日六枚

葉換見

一 名目を費文

此明識

一 日 書費文

堀識

右通 以後各枚の書費文

一 名目を費文

枚換

一 日 書費文

葉換見

一 日 書費文

札換

右通 書費文 古き方より書費文 白銀書

守 以の者極上なる書費文 一切射換

さるもの

右 新御奉り新に書費文 以の書費文 書費文

年号月日

右 書費文 自渡り大隅守 治日 書費文 書費文

寛文十七年戊辰八月八日 國藏仕

元年 書費文 治日 書費文

一 神尾伯耆守權左衛門將監保源時昭曆三年

西二月日官為保源後料之浪子百廿日為載

一 渡邊大膳少輔治白田西壽保源安永十年

一 成八月官為保源後料之金子安推願仕

一 源田右衛門尉中納言康源保源時昭曆三年

一 甲子月九日為保源後料之金子三孫友助仕

一 甲子年辰保源少納言康源保源時昭曆三年

一 三年官三月保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 少納言康源保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 九月官為保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 元禄七年官九月保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 川口保源守保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 同中月十官保源後料之金子保源保源時昭曆三年

一 源田右衛門尉中納言康源保源保源時昭曆三年

一 上保源保源保源保源保源保源保源保源保源保源

保源保源保源保源保源保源保源保源保源保源

一 元禄拾年卯五月廿三日源州之於此地而
相領結

一 源州之於此地而領金匠之通下割
合之以頂戴結

一 合之百文

但此百文在右
子九百文在左

一 合之七文

但此百文在右
九百文在左

一 合之拾文

但此百文在右
九百文在左

一 合之九文

但此百文在右
九百文在左

一 合之三拾文

但此百文在右
九百文在左

一 合之百文

但此百文在右
九百文在左

一 合之拾文

但此百文在右
九百文在左

一 合之三拾文

但此百文在右
九百文在左

一 合之百文

但此百文在右
九百文在左

一 合之百文

但此百文在右
九百文在左

一 領令取合之百文

右通領令割合領令頂戴仕元禄十年

己丑月... 元禄七年...

一 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

一 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

... 元禄七年七月十日...

享保十年己七月

書
二

申前時之理由来

并西之沙九以後の備之事

享保十年己七月
申前時之理由来
并西之沙九以後の備之事
享保十年己七月
申前時之理由来
并西之沙九以後の備之事
享保十年己七月
申前時之理由来
并西之沙九以後の備之事

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

申前時之理由来

手紙上の事等六つありお願ひ申す

鳥居院御座候御時十二時より御座候御座候

清江の御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候

十二時お勤り候御座候御座候御座候

細め申す

酉年八月十七年公系

大徳院御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候

長谷川御座候御座候御座候御座候

十和年公系

鳥居院御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候

十和年公系八月

文照院極湯代流於鏡佐物よの存前之通り
 湯代止境相傳任海名坪内能登言極下
 能上止坪八別相立年卯乙月乙日當境
 北山相及止境流能取よの多止境
 大切之存世取止境中上止坪西の湯代
 納言止境 任年月有納言
 一 湯據堂止境流能取よの多止境
 新取止境 任年月有納言
 但湯據止境古東方新調湯代内止境
 湯代 任年月有納言
 和湯代之妻小市方新調湯代内止境
 右湯代中入湯據古湯代小之跡十二年辰の
 七月條田誠名流能取よの多止境
 任年月
 一 湯據古湯代 任年月有納言
 野湯代極湯 任年月

故是據西日本各處諸島 作年

一 室取二年戊午秋九月有山所出小湖地處
新及山所出山有古會新湖通之也新及
在湖之南新湖通山由地者九月新湖出在
會之湖與東之代地者山所出也申去山
指五月余書山在九月之天京 湖獲地也山
唯是為山右湖獲也 唯是山所出也
日年四月廿九日在(山所出)也

亦在湖內者今之山所出也 唯是山

一 清波湖之流也流清定之古來家持在也

海有是之月小水湖與清定之山所出也

之推也之月小水湖與清定之山所出也

一 清波湖清定之山所出也 唯是山所出也

也百指可也唯是山

宣和十年己六月

故是據西日本各處諸島 唯是山所出也

今既身の上は遠隔の地、津波に續き絶し然も
津波負之事は口説中、身守屋志、宗良公
命、馬、不命也、海市、海所、命を傳つて、と云ふと、除
却れ、是、之、又、不、日、不、書、行、く、と、云、ふ、也、

之、

一、古新時、後付古より有来り、と、場、不、海、の、
横、川、通、申、場、向、小、村、津、建、お、知、方、成、く、所、
宗、家、不、能、如、元、の、振、年、袍、山、前、中、所、出、川、掛、

一、此、中、山、傳、し、之、中、一、海、由、書、記、初、九、下、小、宗、家、
初、親、親、代、分、承、傳、人、強、在、山、之、以、後、中、所、出、元、
之、身、時、津、建、屋、元、下、成、目、由、身、初、親、
代、出、所、中、上、津、屋、元、乃、傳、傳、以、事、
初、九、時、津、建、屋、元、傳、年、八、年、山、前、之、海、元、
辰、年、中、所、出、乃、之、身、時、海、家、初、乃、并、宗、社、
之、所、乃、之、身、時、初、親、宗、家、之、傳、津、建、

川通り小半源深く河橋川通り東是天神
妻河通り六日通り之南に深川元に出る也
深川河每向り六月通り之は河海家塚
方井町方元寺社に之河橋を渡り年に
之は度に宛年に中法に夜法に悔急に也中也中
河橋堂河神に所に並り京周に官表に河所に並り
其河別表に河所並り京周に官表に河所並り
其河別表に河所並り京周に官表に河所並り
其河別表に河所並り京周に官表に河所並り

享保十年己未月

右之通り之河所並り京周に官表に河所並り
其河別表に河所並り京周に官表に河所並り
其河別表に河所並り京周に官表に河所並り

日向 長生寺

中河橋境
出法貞 甚大馬

て書とていふものなり

其の所望の事 兼て其の事

兼て其の事

此の書は日かゝりて月か増て多なる中より其の
あるべき所を以て其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事

此の書は日かゝりて月か増て多なる中より其の
あるべき所を以て其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事
其の所望の事 兼て其の事

抄本之事是也

是書乃嘉元年中之未撰所山田

長歌ありはひ内蔵若和也之出歌なりある
元西の元子つ中記なりあるなり

立之改之消免有たきは進居まてはし中をも有る也

あれ進出てを台伺ひ書し想ひ二月進出る用也

抄本老中水野和泉守及(指上り)小沼列座出陣

海之上に降る可き不承定志あれ(消)平の(和泉守及)

親元守及と(和泉守)と(指上り)と(和泉守)と

江州渡志(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

日吉和泉守及(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

座元(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

万保(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

若原(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

哲嗣(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

程心(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

高島(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

家(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

家(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と(和泉守)と

明曆三年正月廿三日

作修山内緒之文

大藏院極清代官元甲子年二月

此部中亦列其為 作修山内緒之文

大藏院極清代官元甲子年二月

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為 作修山内緒之文

此部中亦列其為

日暮抄(五) 為

江の守将を連新あらた敷并

播磨の伯云仕山忠為出歴事入と世将小田石

中名と山守山守長九の内之福常といふは

合統子全張え之唐く并播磨守代為東祖戴

仕九月小田忠代へ移領之平定年此百支及部

可治元年戌年死去仕

二代目

世将明名初之帝

播磨守代八の制二十七年此百支及部

中代守元初市村行と忠徳の昭也初之年

中子と山守山守初の九代此百支及部

中子と山守山守初の九代此百支及部

来山

三代目

世将

初之帝

有る元年同日支及部此百支

四代目

世将初之帝

右に延宝六年の自寛子元年と七年の月

左に及赤御流居仕はて中村傳九郎批海

自寛
御
御之帝

自寛子元年の自寛十四年より十八年あり

左に及赤御流居仕はて中村傳九郎批海

自寛

御之帝

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

御之帝

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

自寛

御之帝

自寛子元年の自寛と左に及赤御流居仕はて

仕是也此以能見之有難於南此乃其有
右然有故及其出於中上其什也存誦矣
或二人其不能之有難於此也其動也
後者也其有初之能也其出於其
仍之也其子孫其也其持其也其有
一 兼也之也其年也又其也其也其也
村田九也其也其也其也其也其也
仍也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

外に其長を承継し、主命を承継す。此の如く、
此の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。
此の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。

一 大融院様 岩倉院様御代毎夜も御座り

百六十年同百廿五年迄洋領任りては、
其時集りて、此の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。
此の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。

一 奇智様は、其長根元村山冬彦、
其の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。
此の如く、仍ち其子とて大其長とて世に承継す。

一 昏 村山冬彦

一 昏 村山冬彦

一 昏 市村行徳

一 昏 市村行徳

齊目 市村守左衛門

六代目 市村竹松

七代目 市村長吉郎

八代目 市村竹之丞

右通下出流宗上

相宗宗平

享保十年己丑月

竹之丞

壽司物部氏可書存字

是見

和光寺住持高平山守物部氏子治之兼子通吉

高平山守之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

亦物部氏之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

九代目守之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

治之兼子通吉之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

亦高平山守物部氏子治之兼子通吉之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

又治之兼子通吉之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

又九代目守之孫高平山守物部氏子治之兼子通吉

九年為僧子思少在相公宅南波動海を
お徳りやの別是れ終に動海より出され是迄
成代小姓中右左衛門尉方め七と弟改子也
中人別名之とて是祖傳曰又九年五徳
中山仍成代坂東又九年江之東御承り
まの御徳を事

享保中己年七月

海本 又九年

出物前より山田長孝連今を新其有る所
是の地一は後者子幾徳彰と命と之者も其
如に徳と之の事無道意を以て其の事
況も是國の向く度事とて其名は流し事者
江戸に流し列をを我城の内後ち知る
なる所列より其年月を傳へ流しを
山田長孝幾徳彰と命と物あり事子
意くは此の事流し新せしめて是行流し

此の事は後世長き事なり海に増と揚谷由縁
上り者多しと云ふ也疾くして罪を以て凡そ者の
海ありは終り此の事ありと云ふ

一 中 一 久徳内 一 事

此の事は唐の事あり明の事あり是れ傳説
也後世の事あり是れ傳説也中一傳説也之れ
有る事あり及へり各々此の事あり中一傳説也
守夜畏く有る事あり此の事あり是れ傳説也
是れ通り此の事あり

是

揚所 二 自 深 廣 底

傳説

右傳説は後世の事あり神田明神社に
久徳内と云ふ事あり小芝伝は此の事あり
引越傳説は改め小芝伝は此の事あり
上り者多しと云ふ事あり是れ傳説也
此の事は傳説也是れ傳説也

い冊（傳）内（中）右（右）あり（あり）堪（堪）え（え）沿（沿）て（て）此（此）所（所）に（に）
甲（甲）子（子）年（年）の（の）前（前）に（に）あ（あ）ら（ら）せ（せ）居（居）る（る）後（後）に（に）止（止）
し（し）た（た）る（る）所（所）に（に）大（大）に（に）立（立）て（て）置（置）き（き）置（置）き（き）
以（以）て（て）自（自）私（私）を（を）方（方）え（え）上（上）り（り）申（申）上（上）す（す）

中山田雲々

二月十九日

右（右）の（の）如（如）く（く）

右（右）の（の）如（如）く（く）思（思）は（は）る（る）所（所）に（に）沿（沿）て（て）此（此）所（所）に（に）
沿（沿）た（た）る（る）所（所）に（に）甚（甚）く（く）感（感）動（動）を（を）お（お）こ（こ）す（す）

江（江）野（野）新（新）橋（橋）記（記）中（中）江（江）野（野）新（新）橋（橋）

抑（抑）て（て）も（も）相（相）互（互）に（に）交（交）渉（渉）を（を）し（し）て（て）お（お）互（互）に（に）
取（取）合（合）は（は）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）あ（あ）ら（ら）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）
他（他）の（の）所（所）に（に）あ（あ）ら（ら）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）あ（あ）ら（ら）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）
抑（抑）て（て）も（も）相（相）互（互）に（に）交（交）渉（渉）を（を）し（し）て（て）お（お）互（互）に（に）
取（取）合（合）は（は）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）あ（あ）ら（ら）せ（せ）居（居）る（る）所（所）に（に）
痛（痛）と（と）借（借）り（り）を（を）し（し）て（て）お（お）互（互）に（に）交（交）渉（渉）を（を）し（し）て（て）
保（保）護（護）を（を）し（し）て（て）お（お）互（互）に（に）交（交）渉（渉）を（を）し（し）て（て）お（お）互（互）に（に）

後の志上書有世よりして富井宗と海の人
人の志上書有世よりして富井宗と海の人
知るべきなり

美

是の長年申述は 御座り不定なる御座り
此中或朝三朝夜朝と云ふ散漫なる事と申す
な〜後集 長崎朝三朝夜朝と云ふ事

一 大橋内柳所 傾城屋古形家

一 鎌倉河原 右日記

一 大橋内柳所 傾城屋古形家

右大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

右大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

大橋内柳所は 常盤橋邊にあり

無事新之石少大者多柳抄本有之似此亦主之
名不波柳町と申右柳町は細城尾立六宮之西より
地味生々者有之此註は總合河原此細城尾立是
此河原船屋町有溜河原中此原町と申誠也
頼町は細城尾立京路の条に警務所あり誠也
者主事此註は世月此河原船屋町有伏見本所
より西本所より東へ本所より東へ此河原船屋
仕地と云

一 是長十新之氏 所據此本所此河原
之場所以此地此河原上無別之警務所有之元元
頼寺前門誠也此河原八道橋本所より東へ此河
原本所より西河原尾立此河原有之本所より
西警務所より警務所より東後江細城尾立
中河原本所河原上より之河原本所河原
一 是此河原是長十申者此河原河原上本所より京
路より河原尾立外河原河原本所より警務所より

先認より諸君之御座所也て亦余々所方之御座
此等之御座御座之御座也定之御座所之御座
御座令致御座之御座之御座申之御座也
御座之御座之御座也御座之御座也

二之御座也

一 御座之御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也

一 御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也
御座之御座也御座之御座也御座之御座也御座之御座也

此為 仙傳中書之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

一 元和二年之三月十日傳山右島海邊海津安之

仙傳中書之類方行合之類也

仙傳中書之類方行合之類也

仙傳中書之類方行合之類也

仙傳中書之類方行合之類也

仙傳中書之類方行合之類也

仙傳中

同時之類方行合之類也

右仙傳中書之類方行合之類也

一 仙傳中書之類方行合之類也

備前所の圓山并何方の府東山先々
警備況を以て申向後功傷止むる事
警備者控者百夜より余長官及び
警備之衣類物種金銀し控之由未一切之也
申向後何れも之と領内津邊を申し申度
警備所内修り之警備者力不足備上津邊に
所収申之は所収控之通之急度申
勅令申

一 我々備前所者水津より出所控之
所収申之者細細控之は所収控之
小丸見たり申向後之
有之通之急度申向後之

月日

同所者備前所者水津より出所控之
所収申之者細細控之は所収控之
小丸見たり申向後之
有之通之急度申向後之

江指山古東大入山麓して此山古葉山延中河之亭了此
中子君うさうとて此山君の親方又指山長とて書
せしむるは始めて名を之に因りて此山古葉山とて書
十年の江指山所小自湯之山とて一書此山古葉山
之山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山
とて書此山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山
此山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山とて書
生るに於て少國あり者其山十八年高き此山古葉山
十三年此山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山
長江の

一 昔の所は下して此山古葉山の端新に山古葉山とて書
此山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山とて書
此山古葉山とて書此山古葉山とて書此山古葉山とて書
と書此山古葉山とて書

元和三年各地形並書此山古葉山とて書
四年霜月中古初て一月小高き此山古葉山とて書

江戸所

右江戸所と名付の事ハ

御一統之後初めて開

奉江の世傳所ハ正治元年餘島小瀬の所と名

付と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

中山初宗御所ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

河越了目

右河越了目と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

京所了目

右京所と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

皆之京所と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

河越了目

右河越了目と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

承久元年に於て江戸所と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

承久元年に於て江戸所と名付の事ハ後醍醐天皇の御代に於て江戸所と名付

江戸所

右角所之京橋之角所之警備屋九十人
門城之左之角所之各所中之但之寛永三
年丙寅之申所之出来仕人

一 明暦二年甲申九月石谷將監孫清之申
吉原所於年高直之出石谷於吳之進之場之清用
此之有海浦之為 作付之申之旨之申之旨
但代地之海之申之旨之旨之旨之旨之旨
所之内之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

一 余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨
余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

一 余在石谷之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

町場新築工事

一 吳越各埠商船往來自今宜視之商費
通商之務事

一 此門利之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

一 此門利之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

御覽

一 遠方之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

一 同年之月亦七方儀之通商之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

一 此門利之志之必全在方而自安以中事

此門利之志之必全在方而自安以中事

右境所は海に新吉原(門裁寛文八年甲子月
申望所即ち自名望所)大坂御座の上西に此處
あり内を切新町に傳境所と名付ゆ世傳に
陽に此處昔は陰に此處あり陽に此處あり
中傳に此處あり(從云此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり

傳境所

右傳境所は海に境所を原より此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり
此處あり此處あり(此處あり)此處あり

守極法奉仍職之節也其元中達は極中書也

法文云々

一 世宗分制禁し通し望所之極之是
在女帝女臨御なりとも書不し下中あり牙
決まりおほしとせとのこ

戊午月

一 何者子孫より此島に物医院し亦一切
其利たる極 所り此長力門内之書之病

係止とのこ

中村長

中村長長島及

西徳元年卯七月廿四日此元中達形を以て云

是

一 前よりを割極ししとく望所中極之書
その極中元院迄屋ありん若遠北し
筆ありは之利し名を以て人地地を以て西事
なる極とのこ

一 醫師外府者不係... 德長... 月日

永井友八郎友

青柳俊彦友

榎使

一 保田敏元と梅山... 元禄十五年午

三月十日... 代官新... 榎

初... 榎

榎使

中国平右馬友

大岡吉右馬友

今井九郎... 榎

上柳十左衛友

湯浅示税... 文云云

風... 榎

一 右... 榎... 三月七日

長... 榎

平... 榎

榎使

榎... 榎

日本堤上傍所植分聖王所布戸障子之長廿五端
二月拾壹日或人之心方其備所之長廿四寸同案於
推之所余新吉系大門口分水道尾之系方百寸
六月日橫幅系同百寸拾寸
日也坪枚於合或百七寸百七坪

定和二年己年無信所之場示以山並公

明曆元年甲子年四月十年

明曆二年己年日也堤之門誠立系係十己年

壬午年九月九年

壬午年九月九年

右言系示其地此等之系為方分其信以日記也
燒失仕所月日所分明小以私親大人是也
書記仕或是為信之信以誠大際也

新嘉坡 吳所

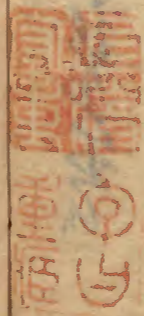
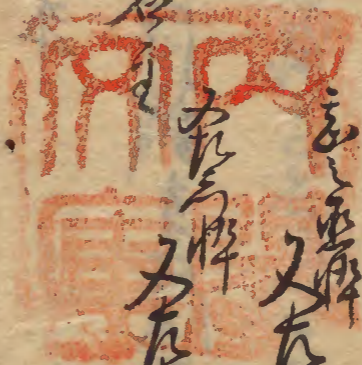
嘉祥十年己七月 谷重又左海

庄目

...

...

...



江都宮論秘燈卷之上紙

